

検証する対応案「新宿小学校敷地内への増設」

I 概要

- 1) 新宿小学校敷地内に常設型の校舎を設置する。また、敷地内にある子どもルームを当該施設と一体型とし、極力敷地面積を確保する。

II 検証項目

1) 円滑な学校運営

- ・老朽化した給食室と既存のプレハブ校舎・子どもルームを含めた、一体型の増設を行うによって、機能的に効率性が高まる。
- ・将来の過大規模校化による、体育館・グラウンド・特別教室利用の面から制約が生じることが予想されるため、それらを解消するための対策が必要である。

2) 広域的な適正配置

- ・新宿小学校の過大規模校化を解消することができない。

3) 安全な通学路

- ・通学路は変わらず、歩道や信号機が既に整備されており、特に緊急な整備は不要である。

4) 学校と地域の関係

- ・新宿小学校区の変更がなく、地域を分断しないため、これまでと同様に自治会組織など、新宿小学校に対する支援体制等が期待できる。

5) 経費等

- ・常設増築型（鉄骨4階 4,100㎡ 普通教室16、特別室、図書室、職員室、事務室、給食室、子どもルーム等）
概算費用（設計・工事費等 11.2億円、仮設校舎1.3億円（2年間））
- ・スケジュール
H22 事業計画、H23 設計、H24～H25 増設工事、H25.9月～H26.3月供用開始